

地域に飛び出せ!

グリーンコープ

元氣くんまつり



ふくしサービスセンターくるみ南・那珂川から福祉のワーカーが駆けつけ、楽しい歌と踊りで会場を盛り上げた

2014年、グリーンコープ生協ふくおかでは大規模な広告キャンペーンを展開しています。それに合わせて、地域の皆さんにグリーンコープを知ってもらい、仲間を増やすための取り組みが進められています。

3月30日、福岡なか支部（以下、なか支部）で元氣くんまつりが行われ、小雨の降る中500人が集まりました。福岡地域理事長北口淳子さんと、なか支部委員長大坪亜野子さんに話を聞きました。



産直びん牛乳メーカー「雪印メグミルク(株)」のコーナー



産直青果生産者「グリーンあさくら」による無農薬野菜の販売では、生産者がおいしい食べ方を教えるなど、交流を深めた



グリーンコープ商品のメーカー「リバーグリーン(株)」と支部・地域委員会が協力して、自家焙煎コーヒーやケーキなどを販売した



食育ワーカーズ・コンシェルジェによる「簡単・子ども料理教室」。子どもたちは真剣な様子でキャベツを包丁で切ったり、ウィンナーを炒めたりしていた



福岡なか支部委員長 大坪 亜野子さん
福岡地域理事長 北口 淳子さん

福岡地域理事会で、なか支部誕生のお祝いをしようとして、プロジェクトを組んでまつりの計画を始めたのは去年の夏だった。地域の人たちになか支部をお披露目すると同時に、グリーンコープを丸ごと知ってもらおうと、まつりには組合員、職員をはじめ、生産者、メーカー、ワーカーズ(労働協同組合)の参加を計画。組合員には、グリーンコープを知らない友人を誘っての参加を呼びかけるチラシを配布した。

当日は地域の人たちによる「松原太鼓」の威勢のいい響きで元氣くんまつりがスタート。揚げたての産直若鶏の唐揚げや産直豚肉の焼肉の販売には行列ができ、子どもたちはお菓子釣りやステージのダンス・ゲームなどに加わって楽しんだ。組合員外の参加者には職員や共同購入ワーカーズのAMITYのワーカーが声をかけ、加入を呼びかけた。「生産者、メーカー、ワーカーズ、組合員が協力してまつりを盛り上げました。参加者にはグリーンコープを丸ごと体感してもらえたんじやないかと思えます」と北口さん。

福岡地域の福岡中央支部と福岡南支部が合併して、福岡市中央区、城南区、南区と那珂川町を地域に持つ、なか支部が開始したのは今年の2月。2つの支部を1つにするため、2013年度から支部委員会や福祉委員会などを合同で行い、合流に向けて準備を進めた。なか支部委員長になった大坪さんは「人数が増えた分、力も増えました。なか支部は元気な委員さんたちばかりです。明るく活動していればきっと仲間が増える」と信じ活動していきます」と迷いはない。

なか支部では2014年度第1回の支部委員会が行われ、まつりが開催されて、支部の組合員活動が元氣よくスタートした。

なか支部では2014年度第1回の支部委員会が行われ、まつりが開催されて、支部の組合員活動が元氣よくスタートした。

なか支部では2014年度第1回の支部委員会が行われ、まつりが開催されて、支部の組合員活動が元氣よくスタートした。

なか支部でも支部・地域委員会がまつりへの出店を計画。地域にチラシを配布して参加を呼びかけ、元氣くんまつりの準備を進めた。

組合員、生産者、メーカー、ワーカーズが一体となって

共生の時代

みどりの地球をみどりのままで

2014 5月

発行：グリーンコープ共同理事会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
ヒューリック博多ビル3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

Contents

主権在民を否定する「特定秘密保護法」に関する理事会声明 2

さが発 労働協同組合ASMATEが誕生! 3

GMOフリーゾーン 全国交流集会 in 栃木 4・5

産直畜産農家の皆さんに義援金の贈呈 6

グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協ふくおか中部地域種紡ぎ・ムラ 7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

チェック!

福岡県糸島市につくった神在太陽光発電所の売電(発電量)状況をホームページで公開しています。トップページ「市民の手による自然エネルギー発電所づくり」バナーをクリック!

主権在民を否定する

「特定秘密保護法」に関する理事会声明

国会での十分な審議も、国民へのきちんとした説明もないうまま、国会で「特定秘密保護法」が2013年12月6日に可決成立し、同月13日に公布されました。1年以内に施行される予定です。現在、国ではそのための準備がすすめられていくと報道されています。

「特定秘密保護法」についてグリーンコープに集う組合員で共有するために、共同理事会で確認された声明文を掲載します。

組合員の思いに添えて、声明文を検討

この法律が国会で審議されている時期に、「特定秘密保護法は私たちの知る権利が脅かされることになり非常に怖い。今の平和を子どもたちに繋ぎたいから、グリーンコープとしてメッセージを出して欲しい」という声が出ました。その思いを受けて、グリーンコープ生協ふくおかの理事会では「特定秘密保護法」の施行に危機感を持ち、グリーンコープとしてどのように考えるかについて検討を重ねられました。そして、2014年3月7日のグリーンコープ生

協ふくおかの理事会で声明文が確認されました。

受けて、2014年4月2日に共同理事会で、グリーンコープ共同

体として声明文を出すことを確認しました。

国民の知る権利は絶対に守らなければならない。国民の知る権利は「主権在民」を守るために最も尊重されなければならない権利です。だからこそグリーンコープは、組合員主権を何よりも大切にし、組合員にきちんと情報を届ける情報公開を貫いてきました。今回成立した「特定秘密保護法」は、国民の知る権利が奪われる恐れがあるという意味で、民主主義の根本である「主権在民」がな

いがしろにされる危険性を孕んでいます。

私たちの問題として考えていきたい

表現の自由が守られている現在の日本社会において、「主権在民」が否定されるようなことがあれば、国民は黙って容認しないはずですが、しかし、「特定秘密保護法」を根子に、「主権在民」に根ざした情報公開が守られないような事態が起らないとは限りません。国家権力によって、恣意的に「主権在民」がないがしろにされる事態が起ることがあれば、グリーンコープとしても行動を起こす必要があると考えます。

グ リーンコープは組合員のものです。また、グリーンコープには組合員に秘匿しなければならない企業秘密などというものは存在しません。ですから、グリーンコープはその存在を賭して、組合員にすべての情報を公開します。そして、グリーンコープがもしこの情報公開の原則を投げ捨て、組合員に必要な情報を秘匿するとすれば、それはグリーンコープの組合員主権が死んだときだけです。私たちは、主権在民を否定する今般の「特定秘密保護法」の強行的な採決とその成立をうけて、グリーンコープの情報公開の原則を上のおり、ここに改めて宣言します。

しかし言うまでもなく、グリーンコープの情報公開の原則も実は、完全なものではありません。何故なら、企業秘密の壁がグリーンコープのこの情報公開の原則の前に厳然と立ちふさがっているからです。具体的には、以下のとおりです。

グ リーンコープは、納入業者や生産メーカーが企業秘密を理由に、商品の仕様を明らかにしない場合、躊躇することなく、その商品を取り扱わないことにしています。しかし、グリーンコープが企業秘密を漏洩しないことを約束（契約）すれば、納入業者や生産メーカーが商品仕様を開示する場合、グリーンコープは企業秘密とされる事項を漏洩しないことを約束（契約）し、商品仕様を開示してもらうことにしています。そして、開示された商品仕様の問題がない場合、その商品を取り扱うことにしています。また、グリーンコープは、その場合、企業秘密を漏洩しないとした約束（契約）を誠実に遵守することにしています。つまり、グリーンコープに開示された納入業者や生産メーカーの企業秘密は組合員にも秘匿することにしています。グリーンコープはそして、企業間に厳しい競争が存在し、企業秘密が厳然と存在している限り、そうすることは組合員にとっても必要なことであると考えています。

日 本国政府は今般、アメリカ政府などから提供される政治・軍事的な情報の漏洩を防止する必要を理由に、「特定秘密保護法」を強行的に採決し、成立させました。私たちはそして、政府間・国家間に深刻な政治・軍事的な対立が存在し、他国政府からその秘密の厳守が要求される場合、日本国政府がアメリカ政府などから提供された情報を国民に秘匿する義務と責任が存在することを認めます。したがって、日本国政府がその義務と責任を履行できるよう、必要な法的措置を講じることの必要それ自体は認めます。私たちはその上で、日本国政府は世界に存在する政府間・国家間の深刻な政治・軍事的対立を解きほぐし、これを解消していくために、全力を尽くしてくれることを心から願います。すなわち、日本国の首相が靖国神社に参拝し、近隣諸国との間にいたずらに対立感情を煽り立てるような愚行を繰り返すことがないことを心から願います。

私 たちはしかし、日本国政府に日本国民に秘匿しなければならない秘密などというものは本質的に存在しないと考えます。にもかかわらず、日本国政府が今般、強行的に採決し、成立させた「特定秘密保護法」は、アメリカ政府などから提供された情報を秘匿することを超えて、日本国政府がおこなうことに関しても、日本国政府が任意に秘密として指定することを許容し、日本国民に秘匿することを合法化するものになっています。そればかりか、日本国政府が任意に指定した秘密を漏洩した者は厳罰に処するとされています。すなわち、「特定秘密保護法」は事実上、日本国は日本国政府のものであって、日本国民のものでないと宣言するに等しいものになっています。本当に恐ろしく、時代錯誤もはなはだしいものであると言わねばなりません。

し かし、主権在民はすでに日本国民に深く根ざし、ゆるぎない価値観として確立されているものです。私たちはしたがって、日本国政府が「特定秘密保護法」を根子に主権在民をないがしろにし、これを覆すことはおそらく不可能であろうと思います。

も ちろん、時代錯誤と反動に対する警戒は怠ることが許されないものです。私たちはしたがって、日本国政府が日本国民に明らかにされるべき情報を秘匿するばかりでなく、「特定秘密保護法」を根子に、国民の情報公開の要求を抑圧・弾圧する暴挙にもし出るとすれば、意を決してこれと戦うことをここに宣言します。

2014年4月2日
グリーンコープ共同体第七期第11回理事会

グリーンコープ生協
さが発

さがに共同購入ワーカーズ 労働協同組合 ASMATEが誕生!



▲配達に出発!!

▶まずはグリーンコープを知って
もらいたいと、出会った方に積
極的に声をかけています



これからのグリーンコープを担っていく働き方として、グリーンコープはワーカーズ(労働協同組合)運動を推進しています。その運動をさらに飛躍させ、世の中へ向けてもアピールしていくため、多くの組合員がワーカーズを設立し、さまざまな事業をはじめています。3月2日、グリーンコープ生協さかの共同購入ワーカーズ「労働協同組合 ASMATE(以下、ASMATE)」の設立総会が行われました。さかの組合員や、福祉やキープ&シヨップを担うワーカーズ、職員、(長崎)の理事長や、他単協の共同購入ワーカーズの代表など約70人が出席しました。

総会のようすと設立までの歩みを紹介しま



ASMATE代表の長谷川敬明さん

明日をつくる ASMATE

総会のはじめに、ASMATE代表の長谷川敬明さんの挨拶がありました。

「今日来てくださった皆様、設立までに出会った人たちに感謝して、これからメンバー全員が思いを一つにしてがんばっていきます」と、意気込みを語りました。

第一号議案では、長谷川さんが設立趣意書を読み上げました。「助け合う理念を持つグリーンコープは本当に素晴らしいと感じています。大切な仲間と共にグリーンコープの活動に深く関わって

いくうちに、生涯グリーンコープで働きたいと思いましたが、会場からは今後の活躍を願って、大きな拍手が贈られました。総会後に懇親会が行われました。

さが理事長の田中裕子さんは「さがでも共同購入ワーカーズが立ち上がったらいよいよ、ずっと思いついて今日の日を待ち望んでいました。私はグリーンコープの活動が好きで、なにより同じ思いを持った仲間との出会いがあったらいいなと思っていました。ASMATEの皆さんもグリーンコープで働くことになったきっかけや職場での関わり方はさまざまにあったと思います。今日からはグリーンコープで出会い、志を同じくした仲間として信じて進んでいけるとおもいます。グリーンコープを必要としている皆さんの人が待っています。



組合員事務局のメンバー。総会の準備などを含め、ASMATEの総会を支えました

す。理事会でも仲間づくりや商品の利用を増やす取り組みを通して、今後もっと応援できるようにがんばります」と挨拶しました。



設立総会のようす

は、ASMATEとしてすべてが初めての経験の中、一生懸命やっている様子が伝わってきました。人と人が結び合っ

さか専務理事の野中雅則さんは「今日の総会で、一つの組織をつくっていく主人公として、一人ひとりが参加していく場が変わっていくはずで、自分で決める、自分の意見を言う、言ったことを組織の中に反映させるためにがんばる、その中で人の意見も聞くということが出来る組織であるように願っています」と話しました。

感謝の気持ちを忘れない

ASMATE理事の江口瑛さんは「私は物心付く前からグリーンコープのせっけんで体を洗い、グリーンコープの食べものを食べて育ちました。自分がなによりも知っている味や安心・安全についてすっかり組合員さんに伝えていきたいと思えます」と、総務を担当する濱田直美さんは「組合員さんとはほとんど電話だけのやりとりになります。顔が見えなくても日々感謝の気持ちを忘れず、言葉を交わしていきたいです」と話しました。「グリーンコープの職場で出会った仲間が助け合い、喜びを分かち合い、共に明日(未来)をつくっていくために、どんな困難にも立ち向かうワーカーズASMATEは、大きな一歩を踏み出しました。」

自分たちで考え歩いていく組織をつくる

代表の長谷川さんが商品配達の担当としてグリーンコープに入ったのは6年前。目標達成のために一生懸命働く中で、少しずつやりがいを感じていた。ワーカーズという働き方があることを知ったのが約4年前。その頃は自分たちがグリーンコープのワーカーズとして、働き方を主体的に考えるところまでは至らず「やれる訳がない」と思っていた。その後配達担当4人を抱えるチームリーダーとなり、目標達成ができて怒りたり励ましたり、みんな課題を解決していくことで、チームに家族のような思いを感じるようになった。チームが結果を出して仕事が面白くなった頃、野中さんからワーカーズについて詳しく聞く機会があった。「自分たちの未来について、ほんやりとだったが何か見えたような気がした」。そこで、メンバーと共に3年前に男女共働の共同購入ワーカーズを立ち上げ活動しているかしまの「ワーカーズピース」を見学させてもらおうと

考えた。かしまのセンターで、朝のミーティングの様子や、生き生きと働くワーカーの姿にとても刺激を受け「自分たちもやりたい!」という思いが強くなっていった。約2年後、ワーカーズ設立に向けて検討会を立ち上げた。「自分たちで考えて運営し、自分たちで広げたい」。長谷川さんは熱い思いを持って、理事会やセンターで働くメンバーといていねいな話し合いを重ね準備をして、設立の日を迎えた。

消費者が手をつないで フリーゾーンを広げ 食べものを守っていこう

グリーンコープは、予防原則の立場から、生物の遺伝子进行操作する遺伝子組み換え(以下GM)に一貫して反対を続け、GM作物を栽培しない地域を広げる「GMフリーゾーン(遺伝子組み換え作物)フリーゾーン運動」に積極的に取り組んでいます。
年に1回、全国のGMフリーゾーン運動をすすめる人々が集まり、運動への思いを新たにしています。2014年の集会には、全国から380人が参加、グリーンコープからは24人が参加しました。そのようすを報告します。

基調講演

TPP交渉の現状と今後の見通し 私たちの暮らし、食と農の未来は?

「今だけ、金だけ、自分だけ」



講師・東京大学 大学院教授
鈴木宣弘さん

TPP(環太平洋連携協定)は、アメリカの企業利益にとって邪魔なものは、命や健康を守る仕組みでも一切許さないとする、ほんのひと握りの人たちの富を守るための協定。ノーベル経済学賞を受賞したスティーグリッツ教授の言葉を借りれば、「1%の1%による1%のための」協定で、99%の人々が損失を被つても、1%の人々の富の増加によって総計としての富が増加すれば効率的だという乱暴な論理である。

日本政府は「1ミリのりとも譲らない」と言っていたが、守ると約束した国益をすでに日米2国間協議で次々と差し出している。BSE(牛海綿状脳症)に関するアメリカ産牛肉の輸入条件緩和、軽自動車増税、アメリカの保険会社のがん保険を全国の郵便局で取り扱うなどだ。政治家や役人

は自分の利益と保身しか考えていない。このままでは、国民の命や健康、暮らしを守る仕組みが「今だけ、金だけ、自分だけ」しか見えない人たちのために壊されてしまう。

GM食品に関連しては、モンサント社などの多国籍企業は、GM種子をさらに拡大していくために、TPPをテコにGM表示をなくすことに力を入れている。「アメリカが科学的に安全と認めたものをあえて表示することは消費者を惑わすことになり」という主張だ。日本人は一人当たり世界でも多くGM食品を消費している。世界で生産されているトウモロコシの約80%、大豆の約70%がす

輸出規制が何年も続くような「お金を出しても食料が買えない」不測の事態が起こることもある。国内の食料生産を維持することは、短期的には輸入農産物より高コストであっても、長期的に考えれば実はコストは低い。事実、2008年には食糧危機不安で各国が米を売らなくなり、世界的に在庫は充分あったにもかかわらず、米の輸入を促進し生産を縮小していたハイチやフィリピンなどでは、必要な量の米を輸入できなかった例もある。

スイスでは、「ナチュラル、オーガニック、動物福祉、生物多様性、そして美しい景観を考慮した生産物は、安全でおいしく適正な価格」と国民が理解している。小学生が1個80円もする国産の卵を買って「これを買うことで、農家の皆さんの生活が支えられる。そのおかげで私たちの食生活が成り立つのだから当たり前でしょ」と言うほど意識が高い。ほんものの価値を伝えるための関係者の並々ならぬ努力の成果だ。「高いけれども徹底的にモノが違うからあなたのものしか食べたくない」という生産者と消費者の「つながり」が、日本では「本当に強い農業の源」となるはずだ。日本の農業が規模拡大でコストダウンしても、外国の大規模農業には到底かなわない。個々の組織の力は大きくなくても、農協、生協などの生産から消費までに関わる組織がネットワークをつくらせて、ほんものをしっかりと伝えていく。TPPなどの流れに対抗して、地域の食、日本の食、そして地域そのものを本当に守っていくには、こういった取り組みをさらに強化して広げていくことが必要。そして、そんな努力さえも根底から覆そうとするTPPには、あくまで「NO」を突きつけていかなければならない。

輸出規制が何年も続くような「お金を出しても食料が買えない」不測の事態が起こることもある。国内の食料生産を維持することは、短期的には輸入農産物より高コストであっても、長期的に考えれば実はコストは低い。事実、2008年には食糧危機不安で各国が米を売らなくなり、世界的に在庫は充分あったにもかかわらず、米の輸入を促進し生産を縮小していたハイチやフィリピンなどでは、必要な量の米を輸入できなかった例もある。

スイスでは、「ナチュラル、オーガニック、動物福祉、生物多様性、そして美しい景観を考慮した生産物は、安全でおいしく適正な価格」と国民が理解している。小学生が1個80円もする国産の卵を買って「これを買うことで、農家の皆さんの生活が支えられる。そのおかげで私たちの食生活が成り立つのだから当たり前でしょ」と言うほど意識が高い。ほんものの価値を伝えるための関係者の並々ならぬ努力の成果だ。「高いけれども徹底的にモノが違うからあなたのものしか食べたくない」という生産者と消費者の「つながり」が、日本では「本当に強い農業の源」となるはずだ。日本の農業が規模拡大でコストダウンしても、外国の大規模農業には到底かなわない。個々の組織の力は大きくなくても、農協、生協などの生産から消費までに関わる組織がネットワークをつくらせて、ほんものをしっかりと伝えていく。TPPなどの流れに対抗して、地域の食、日本の食、そして地域そのものを本当に守っていくには、こういった取り組みをさらに強化して広げていくことが必要。そして、そんな努力さえも根底から覆そうとするTPPには、あくまで「NO」を突きつけていかなければならない。

輸出規制が何年も続くような「お金を出しても食料が買えない」不測の事態が起こることもある。国内の食料生産を維持することは、短期的には輸入農産物より高コストであっても、長期的に考えれば実はコストは低い。事実、2008年には食糧危機不安で各国が米を売らなくなり、世界的に在庫は充分あったにもかかわらず、米の輸入を促進し生産を縮小していたハイチやフィリピンなどでは、必要な量の米を輸入できなかった例もある。

スイスでは、「ナチュラル、オーガニック、動物福祉、生物多様性、そして美しい景観を考慮した生産物は、安全でおいしく適正な価格」と国民が理解している。小学生が1個80円もする国産の卵を買って「これを買うことで、農家の皆さんの生活が支えられる。そのおかげで私たちの食生活が成り立つのだから当たり前でしょ」と言うほど意識が高い。ほんものの価値を伝えるための関係者の並々ならぬ努力の成果だ。「高いけれども徹底的にモノが違うからあなたのものしか食べたくない」という生産者と消費者の「つながり」が、日本では「本当に強い農業の源」となるはずだ。日本の農業が規模拡大でコストダウンしても、外国の大規模農業には到底かなわない。個々の組織の力は大きくなくても、農協、生協などの生産から消費までに関わる組織がネットワークをつくらせて、ほんものをしっかりと伝えていく。TPPなどの流れに対抗して、地域の食、日本の食、そして地域そのものを本当に守っていくには、こういった取り組みをさらに強化して広げていくことが必要。そして、そんな努力さえも根底から覆そうとするTPPには、あくまで「NO」を突きつけていかなければならない。

輸出規制が何年も続くような「お金を出しても食料が買えない」不測の事態が起こることもある。国内の食料生産を維持することは、短期的には輸入農産物より高コストであっても、長期的に考えれば実はコストは低い。事実、2008年には食糧危機不安で各国が米を売らなくなり、世界的に在庫は充分あったにもかかわらず、米の輸入を促進し生産を縮小していたハイチやフィリピンなどでは、必要な量の米を輸入できなかった例もある。

スイスでは、「ナチュラル、オーガニック、動物福祉、生物多様性、そして美しい景観を考慮した生産物は、安全でおいしく適正な価格」と国民が理解している。小学生が1個80円もする国産の卵を買って「これを買うことで、農家の皆さんの生活が支えられる。そのおかげで私たちの食生活が成り立つのだから当たり前でしょ」と言うほど意識が高い。ほんものの価値を伝えるための関係者の並々ならぬ努力の成果だ。「高いけれども徹底的にモノが違うからあなたのものしか食べたくない」という生産者と消費者の「つながり」が、日本では「本当に強い農業の源」となるはずだ。日本の農業が規模拡大でコストダウンしても、外国の大規模農業には到底かなわない。個々の組織の力は大きくなくても、農協、生協などの生産から消費までに関わる組織がネットワークをつくらせて、ほんものをしっかりと伝えていく。TPPなどの流れに対抗して、地域の食、日本の食、そして地域そのものを本当に守っていくには、こういった取り組みをさらに強化して広げていくことが必要。そして、そんな努力さえも根底から覆そうとするTPPには、あくまで「NO」を突きつけていかなければならない。

今後の課題



天笠啓祐さん



司会: 生活クラブ・スピリッツ(株) 代表取締役専務 白井和宏さん

パネルディスカッション

生活クラブと栃木県内の提携産地の生産者が一体となって、non-GMO、食料自給問題、循環型農業の構築、エネルギー問題に「まごころ」として取り組んでいます。この取り組みの成果を報告し、TPPから日本の農業を守るために、それぞれがどんな行動をとっていかればいいのか意見交換

生活クラブと栃木県内の提携産地の生産者が一体となって、non-GMO、食料自給問題、循環型農業の構築、エネルギー問題に「まごころ」として取り組んでいます。この取り組みの成果を報告し、TPPから日本の農業を守るために、それぞれがどんな行動をとっていかればいいのか意見交換

生活クラブと栃木県内の提携産地の生産者が一体となって、non-GMO、食料自給問題、循環型農業の構築、エネルギー問題に「まごころ」として取り組んでいます。この取り組みの成果を報告し、TPPから日本の農業を守るために、それぞれがどんな行動をとっていかればいいのか意見交換

生活クラブと栃木県内の提携産地の生産者が一体となって、non-GMO、食料自給問題、循環型農業の構築、エネルギー問題に「まごころ」として取り組んでいます。この取り組みの成果を報告し、TPPから日本の農業を守るために、それぞれがどんな行動をとっていかればいいのか意見交換

GMOフリーゾーン登録状況

(単位:ヘクタール)

	面積	前年増減
三重	260.03	0.00
滋賀	290.71	0.00
京都	45.60	0.00
大阪	631.67	2.40
兵庫	6,019.25	13.99
奈良	338.98	0.00
和歌山	26.98	1.50

	面積	前年増減
福岡	1,033.45	22.07
佐賀	77.38	74.56
長崎	161.76	0.00
熊本	397.00	10.30
大分	95.11	0.03
宮崎	164.26	10.39
鹿児島	418.94	252.77
沖縄	7.64	0.00

	面積	前年増減
鳥取	942.75	450.00
島根	170.03	1.50
岡山	22.26	0.50
広島	76.27	2.12
山口	893.59	133.40

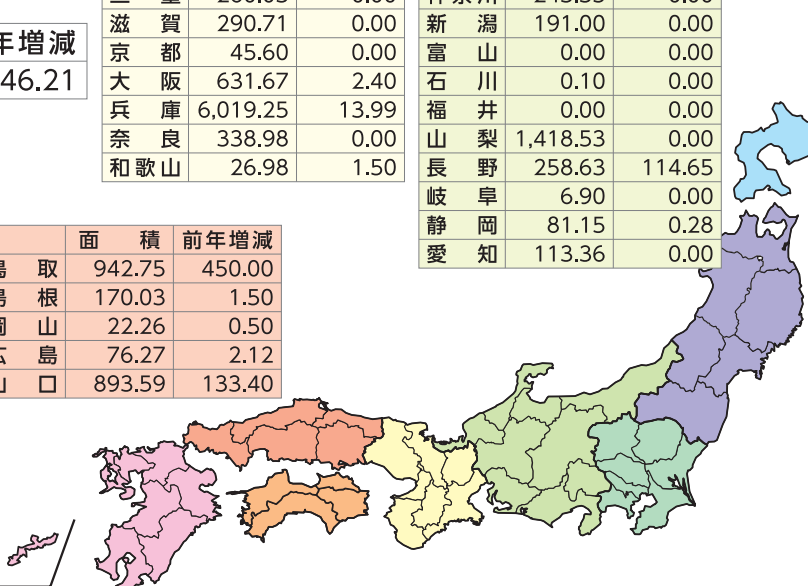
	面積	前年増減
徳島	6,871.09	9.00
香川	39.95	2.90
愛媛	281.80	34.20
高知	652.93	0.00

	面積	前年増減
神奈川	243.35	0.00
新潟	191.00	0.00
富山	0.00	0.00
石川	0.10	0.00
福井	0.00	0.00
山梨	1,418.53	0.00
長野	258.63	114.65
岐阜	6.90	0.00
静岡	81.15	0.28
愛知	113.36	0.00

	面積	前年増減
北海道	45,359.08	117.83

	面積	前年増減
青森	43.86	0.00
岩手	76.46	0.00
宮城	7,570.00	0.00
秋田	293.87	0.00
山形	5,043.29	0.00
福島	3.30	0.30

	面積	前年増減
茨城	406.79	16.01
栃木	2,101.55	1,372.65
群馬	56.98	0.00
埼玉	231.85	1.56
千葉	932.93	1.30
東京	159.38	0.00



生産者と消費 GMOフリ 日本の農業と食

第9回GMOフリーゾーン全国交流集会 in 栃木 育てよう!未来につなぐ希望の種

2014年3月15日~16日

主催: 遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン

共催: 生活クラブ生協・栃木を中心とした実行委員会



生活クラブ生協・栃木 寸劇「遺伝子組み換えって何?」
生活クラブ生協・栃木では、オリジナルのペープサートを使ってGM問題をわかりやすく楽しく伝えています。そのペープサートをもとにした寸劇が披露されました



来年はグリーンコープ生協くまもとで開催
生活クラブ生協・栃木理事長の伊藤三保さん(右)から、次回の受け入れ団体であるグリーンコープ生協くまもとと理事長の牧幸子さん(左)へバトンが手渡されました

まるごと栃木の成果とTPP



パネラーのみなさん
左から、農事組合法人喜連川ファーム理事 養豚農家 菊地文夫さん、JAなすのら会 水田・野菜農家 益子光一さん、帯根酪農業協同組合 総務課長 印南智久さん、生活クラブ生協・栃木 理事長 伊藤三保さん、遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン 代表 天笠啓祐さん、東京大学 大学院教授 鈴木宣弘さん

ついでに、パネラーのみなさんがそれぞれ、その立場から「生産者と消費者の連携強化が大事であり、『まるごと栃木』はそのモデル。生産者と消費者の結びつきを今まで以上に強化し、いっしょに『GM食品は食べない、買わない、作らない』という声を上げ続け、GMでないものを選択できるような食品表示制度を求める活動を続けていくことが大事。今日得たいろんな情報を周りの人たちに発信していきましょ」と会場に呼びかけました。

グリーンコープと青果生産者からのメッセージ

グリーンコープ共同体代表理事の田中裕子さんが、グリーンコープのGM反対運動の取り組みについて報告しました。また、グリーンコープの青果生産者綾菜会(宮崎県綾町)の小田道夫さんが、生産者としてのメッセージを読み上げました。

安心して暮らせる時代を次世代へ



綾菜会
小田道夫さん

綾町は町ぐるみで安心・安全な農畜産物の生産に取り組んでいます。しかし、TPPにより日本の食卓と農村文化が危険にさらされています。この運動を全国の隅々まで広げて、

TPPを阻止し、日本の農業と食の安全を守り、安心して暮らせる時代を次世代にバトンタッチできるように、農家と消費者のみなさんで一致団結してがんばっていきましょう。

買わない・食べない運動を広げていく



共同体代表理事
田中裕子さん

2013年度も自生GMナタネ汚染調査活動をはじめ、さまざまなGM反対運動に取り組みました。GMナタネの輸入港と搾油・飼料工場、それらを結ぶ幹線道路の周辺だけでなく、内陸部などでもGMナタネの自生の拡大が懸念されます。隠れGMナタネや広い

範囲での交雑など、回を重ねるごとに汚染の実態が明らかになっています。行政への申し入れや、私たち消費者がGMOについて知り、買わない・食べない運動を広げていくことが、GMOを止めることにつながると思います。これからも運動を続けていきます。



代表 天笠啓祐さん

遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン

GM作物の現状

2013年のGM作物の栽培面積は世界の農地の10分の1強まで達したが、前年からの伸び率としては低かった。しかし、

「経済の自由な活動を妨げない」というのがTPPである。自由貿易協定があちこちで締結されているが、そうすると、「厳しいと貿易障壁になる」というのがTPPである。TPPを介してGMOがさらに広がる

カナダ政府はアメリカ企業に訴えられて敗訴した。また、多国籍企業による種子支配・食料支配がさらに強まること、日本でも種子企業の買収がすすみ、農家がこれまで受け継いできた自分たちの種子を守れなくなるようなことも懸念される。アメリカと自由貿易協定を結んだ韓国が、まさにその状況にある。私たちに何ができるか、考えて取り組んでいかなければならない。

大会宣言(一部抜粋)

バンガラデシでGMナスの栽培が始まり、フィリピンではGM稲を作付する動きがあり、米国ではGM鮭の承認が行われようとしており、私たちの食卓には不安な食品が増え続けています。日本でもいつ、GM作物の栽培が始まるか分かりませんが、GM動物食品が認可されるか分かりません。また日本のTPPへの参加は、食の不安を一層深刻にさせる可能性を帯びています。

今日、豊かで美しい自然と共生する食と農を追求してきた那須の地に集まった私たちは、「育てよう!未来につなぐ希望の種」を心に置き、世界の人々とともにGM作物栽培拒否地域を広げ、自治体でのGM作物栽培規制条例の制定を後押しするためにGMOフリーゾーンを拡大していきます。GMOフリーゾーンの輪を広げること、地域の農と食文化を守り、食の安全と生態系を守ります。

2014年3月15日
第9回GMOフリーゾーン
全国交流集会 in 栃木
参加者一同



産直畜産農家の皆さんに 義援金を届けました

若鶏生産者

義援金の贈呈式と交流会

若鶏生産者
秋川牧園 安真木ファーム
(福岡県田川郡川崎町) 中原さん
日時：2014年2月20日
主催：ふくおか中部地域理事会

中原さんの農場では、暑さの残る10月に台風が接近する中、強風で鶏舎が飛ばされ、室温が上がるので蒸れないように気を付けて、ファンを回すなどの対策を取っていました。ところが、少し離れたところにある雛を入れたばかりの鶏舎で付きつきの見守りをしていた間に、飼育していた若鶏が死亡してしまいました。



中原さんご夫婦に義援金を渡す、ふくおか中部地域理事長 三原さん(右端)

日光が当たり風通しがよい開放鶏舎は、鶏を自然に近い状態でストレスが少なくのびのびと育てられるという良さがあります。しかし、暑さ対策、自然災害、鳥インフルエンザ等、一年中気が抜けないというリスクも抱えています。



中原さんは「今回のことを教訓にして対策を考えていきたい」と思っています。

中部地域理事長 三原幸子さんは「今回の被害のお話から、開放鶏舎での飼育の難しさについて詳しく知ることができました。ここ数年続いている異常気象によって、自然と向き合い生き物を育てていく生産者は、さらに工夫と努力を強いられています。これから産直若鶏を語っていく中で、お話しと共に伝えていきます」と応えました。

2013年の夏は記録的な猛暑に見舞われ、また台風23号の被害も重なり、産直若鶏生産者の安真木ファームと産直豚生産者の紅会 浦ファームは、大きな被害を受けました。産直たまご生産者も例年以上の暑さ対策を行いましたが、それでも多くの鶏が死亡する被害を受けました。

グリーンコープでは生産者を応援しようと、11月に義援金を呼びかけました。370万円が組合員から寄せられ、被害を受けた生産者の皆さんに届けました。

ふくおか中部地域理事会では今年2月、被害にあった産直若鶏生産者を招いて、義援金の贈呈と交流会を行いました。

贈呈式のように、別途義援金を届けた産直たまご生産者のお話を紹介します。

■義援金を届けた生産者と義援金額

生産者		義援金額
若鶏	秋川牧園 安真木ファーム	2,757,200円
たまご	13生産者へ一律5万円	650,000円
豚肉	紅会 浦ファーム	300,000円
合計		3,707,200円

豚肉生産者



台風23号の強風の影響で豚舎の屋根が一部損壊する被害に見舞われた紅会浦ファームへ、30万円を届けました。

たまご生産者



(有)ヨコテの開放鶏舎

産直たまご生産者 (有)ヨコテの横手さんのお話
2013年の夏は連日35度の猛暑で、一千羽の鶏が死にました。鶏にとって35度という気温は生死の瀬戸際です。鶏は汗腺がないので、犬のようにハアハアと口を開け息づかいが激しくなるんです。そんな様子を見ながらファンを回したり、細霧装置を使ったりして涼しくする工夫をしましたが、被害が出てしまいました。また、気温が上がると鶏の食欲も落ちます。1羽当たり120g程食べるエサも90gに減ってしまいました。それでも母鶏は自分の体重を減らしてでもたまごを産もうとします。母鶏の体重が減ると、産むたまごの重量も減るので、1パック10個で600g入れる出荷の段取りもいつもと違い難しくなっています。

今年の夏に備えるために窓に3×4枚の板を打って、入ってくる光が木漏れ日のようになるようにしました。他の生産者も様々に対策を考えているようです。

今回の組合員さんからのカンパはありがたいものでした。これからも安心・安全でおいしいたまごをつくっていきます。



No.69

「グリーンコープはこれからも 残留放射能検査をおこなっていきます」

3年前の原発事故による放射能汚染問題は、今も多くの人たちの生活基盤を奪い、汚染水漏れなど甚大な被害を及ぼし続けています。修正されたエネルギー基本計画案では、「安全性が確認された原発は再稼働を進める」と明記され、世論調査の原発再稼働反対意見が6割に達している国民の意見は反映されない内容となっています。

人として守られるべき「食の安全」は今も不安の中にあり続け、私たち自身が安心して安全な食べものを選択せざるをえない状況です。

グリーンコープは、放射能汚染という目に見えない組合員の不安に応えるために、独自の放射能測定室を設置し食品の残留放射能検査をおこなっています。そして、その結果を「共生の時代」(機関紙)やホームページで公開しています。グリーンコープは放射性セシウムについて10ベクレル/kgを自主基準とし、これを超える数値が出た場合、共同体育事会で取り扱いを検討することとしています。今まで安心して安全な食べものを生み出してきたように、これからも変わらず放射能汚染にきちんと向き合い、継続的に検査をおこなっていきます。

原発事故による放射能汚染は悔やんでも悔やみきれないことですが、原発のない未来をつくることは、今を生きる私たち大人の責任です。小さな一歩が未来につながるように脱原発の歩みを確実にすすめていきましょう。

グリーンコープ共同組織委員会



プロフィール

かなと 原田可菜人さん 東京都出身。詩人。
ゆみこ 小川裕巳子さん 福井県出身。カフェ村茶乎店主。中学生2人の子どもと3人暮らし。グリーンコープ生協ふくおか組合員。
あきこ 森田暁子さん 広島県出身。身体づくり案内人。中学生1人と小学生2人の子どもと4人暮らし。グリーンコープ生協ふくおか組合員。



左から、小川さん、森田さん、原田さん。看板や竹と和紙の扉は原田さん手作り

種紡ぎ・ムラ

原田 可菜人さん
小川 裕巳子さん
森田 暁子さん

福岡県宗像市、海も山も近い自然豊かなこの地に、築150年を超える古民家を改装したカフェがひっそりと建っている。カフェを営んでいるのは、三人の男女。それぞれの夢を持ち寄って「種紡ぎ・ムラ」として自然と親しみ暮らしを楽しむ様々な活動をしている。ゆったりと居心地のいいカフェで、三人の話を聞いた。

人と人がよりあいつながる

ムラでありたい

「種紡ぎ・ムラ」は、詩人である原田さんの詩に小川さんが出会ったことがきっかけで、2007年に生まれた。「今の社会、人は立場に縛られ、優劣で他と比較される。でも本当は、ただの自分でいいはず。自由な価値観を持ち、自分なりの言葉を紡げばそれでいいんだ」と言う原田さん。子どもが障がいをもったことをきっかけに自分の内側と向きあい、どうやってこの命を燃やしていこう、本当にやりたいことは何なのかと考えていた小川さんは、原田さんと話をする中で「皆が優秀なく、自分らしくいられる場づくりをしたい」と自分が思っていたことにはつきりと気づいた。小川さんと一緒に「自然農」を学び、やはり生きることについて考えていた森田さんも加わり、三人の「種紡ぎ・ムラ」(以下、ムラ)としての活動が始まった。「種は命そのもの。紡ぐとは糸をよりあうこと。人と人が関わりあい、交差しながらムラになる。そんな場になればという思いを込めました」と小川さん。

いろんな人が生きることに向きあひながら出会い語りあえる場、自然から産まれ自然に還る「循環」のある暮らしの場、野菜を作り料理して食べる場をつくりたいと、三人の思いは一つのかたちになっていった。
廃屋となっていた民家と土地を借り、家を覆っていた竹林を切り開くところから、場づくりは始まった。重機は使わずすべて手作業。荒れ果てた家屋は、竹や廃材、山から切り出した木を使って原田さんが修復。椅子やテーブルも手作りした。小川さんと森田さんは原田さんを手伝いながら畑を開墾。仕事をもち時間的制約のある中で作業。6年の歳月をかけ、2013年夏、「暮らしのカフェ村茶乎」がオープンした。
季節の自然を味わう
村茶乎の料理は、小川さんが手作りする。素材は、ムラの畑や近隣農家の無農薬・無化学肥料で育てた野菜、無添加の調味料など。天然の原料や安全性に徹底してこだわり、グリーンコープの食材も取り入れている。その日手に入る食材から考えるメニューは、雑穀入りごはんや味噌汁、漬物、豆腐や野菜の惣菜など、旬の素材を生かしたやさしい味わい。「素材をどう生かすか考えるのは、楽しくもあり苦しくもありです。素材に育てられているんだと思います」と小川



囲炉裏を囲んでくつろぐことも。店内で原田さんの詩や、絵本などを読むことができる

さんは言う。ムラでは、それぞれの得意分野を活かし様々なイベントを催している。詩をとおして語りあう会、身体と心づくり教室、天然酵母のパン作り、たけのこ掘りや畑の会など、季節の自然や味、人との語りを楽しむ企画が盛りだくさん。いろんな人に参加してもらいムラを育てていきたいという思いから、フェイスブックや機関紙で会員も募集している。3カ月に1度発行している機関紙は森田さんが編集する。「私にとつてムラはワクワクがいつぱいの場所。いろんなことに挑戦して、自分の中に留まるものを続けたい。そしてそれを発信していけたらと思います」。
今も発展途上にあるムラ。これからは活動を広げていこうと、三人は夢を膨らませている。「暮らしのカフェ」として衣食住全般や子育てに関わっていくのがムラの願いだ。
いのちを見つめる
17歳で家を出、本当の自



敷地内で鶏を飼っている。新鮮な卵は村茶乎の料理に

送信 Green Co-op 生協ひょうご 理事長 土方 明子

夕食の支度前にニュースを見るのが好きです。アナウンサーの後ろに映る東京の夕景が関西と違うなと思うことがあります。こちらはまだ明るいのに、もう暗く見えます。そういえば、かつて九州に転居した直後、朝、窓の外を見てまだ時間があると思って時計を見て大慌てした経験がありました。

経度が違えば日の出や日の入りが違うのも当たり前です。日本列島で時差がなくて当たり前と思っても、微妙な差はあります。天候も気温も異なっているから、お土地柄とか味の好みとか様々な違いがあつて楽しめます。

関西人はお笑いだけやないんやけど。どこの国のように横にすごく長いのに1つの時間に決めているのはしんどいでしょね。

森田さんは、人とふれあい、鶏を飼い、畑をして自然と遊ぶムラという空間が、自分や子どもたちを育てていると感じている。小川さんは「何かと出会っていのちを見つめた時、人生が変わることがある。そのきっかけは人生のプロセスの中の小さな点に過ぎないけれど、ムラがその点になれば」と静かに語る。様々な人が出会い交差しながらそれぞれの生き方を見つめなおす、そして互いに活かしあう、そんな「ムラ」が、この小さなカフェから広がろうとしている。
※耕さず、化学肥料、農薬を用いない米・野菜作りを実践する考え方を

投稿募集 投稿欄 私の好きなグリーンコープ商品 め産直びん牛乳 先日の号外で、産直びん牛乳の利用が減り続けていると知り、驚いています。紙パック特有の臭いが嫌いであまり牛乳を好まなかった私が、グリーンコープ加入を決めたのは、びん牛乳の存在でした。冷たくても温めてもとってもおいしいのです。我が家の子どもたちも大好きで、水やお茶のように牛乳を飲んでいきます。特に女性に多い、骨粗鬆症。カルシウム吸収率の良い牛乳を、小さな頃からはもちろん、女性は一生しっかり飲みましょう。女性はおなじ飲み物なら、安心安全でおいしい、グリーンコープの産直びん牛乳を。
グリーンコープやまぐち生協 矢原 恵美子



健康でのびのびと育つ だから、おいしい 産直若鶏



鶏モモンテー

子どもたちが大好きな、から揚げ! チキンカツ!
鶏肉は、いろんな料理に使える万能食材。
だからこそ、「家族や大切な人たちに安心して食べさせられる鶏肉がほしい」。そんなお母さんたちの願いに応え、**産直若鶏**は誕生しました。生産者が心を込めて生産している、グリーンコープ自慢のおいしい鶏肉です。
カタログGREEN3号より**産直若鶏**が値下げとなりました。この機会にたくさん利用して、生産者を応援しましょう。

— 生産者こだわりの飼育方法 —

安心・安全な飼料

- すべてnon-GMO（遺伝子組み換えでない）の原料。さらにトウモロコシはポストハーベストフリー（収穫後農薬を使っていない）。
- 国産飼料米を20%配合。

自然な環境でストレスなく育つ

- 日当たりや風通しの良い開放型鶏舎で平飼い。
- 1坪あたり35羽以下が基本。ゆとりある空間で育つ。

薬剤に頼らない

- 鶏舎単位でオールインオールアウト。病気の感染や原因を遮断。
- 元気に育つから、全期間で抗生物質や合成抗菌剤等を使用しない飼育が可能。

※鶏舎に雛鶏を一齐に入れて育て、一齐に出荷すること。出荷後、次の雛を入れる前に鶏舎を洗浄・殺菌する

ウイルスや病原菌の侵入を徹底的に防ぐ

- 鶏舎の周りに石灰を撒き、入り口に消毒槽を設置し、車や人の出入りを制限。
- 鶏舎にネットを張り、野鳥や動物の侵入を防止。



秋川牧園グループ 菊川農場の13日齢の鶏

飼料の原料はすべて植物性

- 魚粉や油脂、動物由来の原料を使用しないので、臭みのない肉に。

60日以上長期飼育

- 肉の中の旨み成分イノシン酸が増え、おいしい肉に。

値下げを決断
しかし近年組合員の利用が徐々に減少し、このままでは生産者が将来の

世界的な穀物価格の上昇により飼料価格が高騰し、日本の畜産物の生産者は大変厳しい経営を強いられています。そのよ

うな中でも、**産直若鶏**の生産者は「何よりも安心・安全なもの」を、そしておいしいものを組合員に届けたら」という揺るぎない思いをもって生産を続けています。

産直若鶏のおいしさをもっと広く知ってほしい
産直若鶏のおいしさ

展示を持って生産を続けていくことが難しい状況になっていきます。今回の値下げは、「**産直若鶏**をもっとたくさん利用してほしい。そのおいしさと品質の良さを、もっと多くの組合員に知ってほしい。そのために、もっと利用しやすい価格にしよう」という生産者の決断によって実現しました。できるだけ価格を下げるために、商品も利用の多い規格に整理しました。

展覧を持って生産を続けていくことが難しい状況になっていきます。

自慢の産直若鶏をもっともっと利用しよう

いろんな部位をおいしく食べよう



を一人でも多くの組合員に「見て」「聴いて」「食べて」「知って」「もらいたい」と、多くの単協で学習会やモニター企画、キープ&ショップでの取り組み等がすすめられています。学習会には生産者も積極的に参加して**産直若鶏**のこだわりを説明し、おいしさをアピールしています。

2014年3月の組合員数
375863人 (3/20現在)

神在太陽光発電所売電量

2014年3月 117,810kWh
2013年9月からの累計は612,840kWh

リユース、リサイクルデータ 2014年2月分 (回収率)

リユースびん 回収率 50.4%	牛乳びん 回収率 97.4%
モールドパック 回収率 95.6%	仕分け袋 回収率 9.0%

フードマイレージ
2009年9月から2014年3月までに組合員の利用によってたまったのは

304,123,598.5

poco
CO₂に換算して30,412トン削減したことになります

アジア民衆基金
2009年4月から2014年3月までに組合員の利用によってたまったのは

35,447,593円

グリーンコープの産直若鶏生産者
有 大矢野原農場
熊本県の生産者

(株)秋川牧園
山口県、島根県、福岡県、熊本県にある13の生産者グループ

生産者おすすめレシピ
鶏ムネ肉のマヨネーズチキン

あっさり ヘルシー やわらかい

ムネ肉に塩こしょうとマヨネーズをつけ、パン粉をまぶし、多めの油で揚げ焼き。火を通しすぎないのがコツ。

これからずっとおいしさと安心を第一に

(株)秋川牧園 生産部 直営生産課長 **藤重 亨さん**

鶏の飼育で一番気を遣うのが温度管理です。寒いときや暑いときは鳴き声が違いますよ。常に

鶏のようすに注意して観察します。ベテラン生産者が若い生産者に経験やコツを伝えたり、逆に若い生産者から新しい情報をもったり、私たち生産者は全員で切磋琢磨しています。近年は経営的に厳しい状況がありますが、これからも安心・安全でおいしい若鶏をお届けしていきたいと思っています。今回の値下げを機に、ぜひ**産直若鶏**をたくさんご利用ください。

Table with columns: 番号 (No.), 商品分類 (Category), 商品名 (Product Name), 原料産地 (Raw Material Origin), 製造地 (Manufacturing Location), 製造日・収穫日等 (Manufacturing/ Harvesting Date), 測定日 (Measurement Date), 検査法 (Method), ヨウ素-131 (Iodine-131) results, セシウム-134 (Cesium-134) results, セシウム-137 (Cesium-137) results.

